

AVANGNAQ 犬ぞりによる 北極圏環境調査プロジェクト

— グリーンランドの人々は北極に吹く強い北風を
AVANGNAQ(アバンナット)と呼びます —



「自分に何が出来るか？」と考えた時

僕の手の中には 北極しかなかった

山崎 哲秀 プロフィール

山崎 哲秀(やまさき てつひで)

犬ぞり極地探検家。

1967年10月2日 兵庫県生まれ、幼少期を福井県高浜町で過ごす。

洛南高校(京都府)卒業。大阪府高槻市在住。血液型 B 型。

1988年にアマゾン河イカダ下り単独行を経て、1989年からは北極圏(主にグリーンランド)遠征を繰り返し、グリーンランド北部エスキモー(イヌイト)式の犬ぞり技術をマスター。北極圏での数々の観測調査遠征をはじめ、第46次日本南極地域観測隊(越冬)にも参加し、現在は犬ぞりによる「アバンナット

北極圏環境調査プロジェクト2006-2015年」10年計画に取り組んでいる。

(社)日本雪氷学会会員、南極倶楽部会員

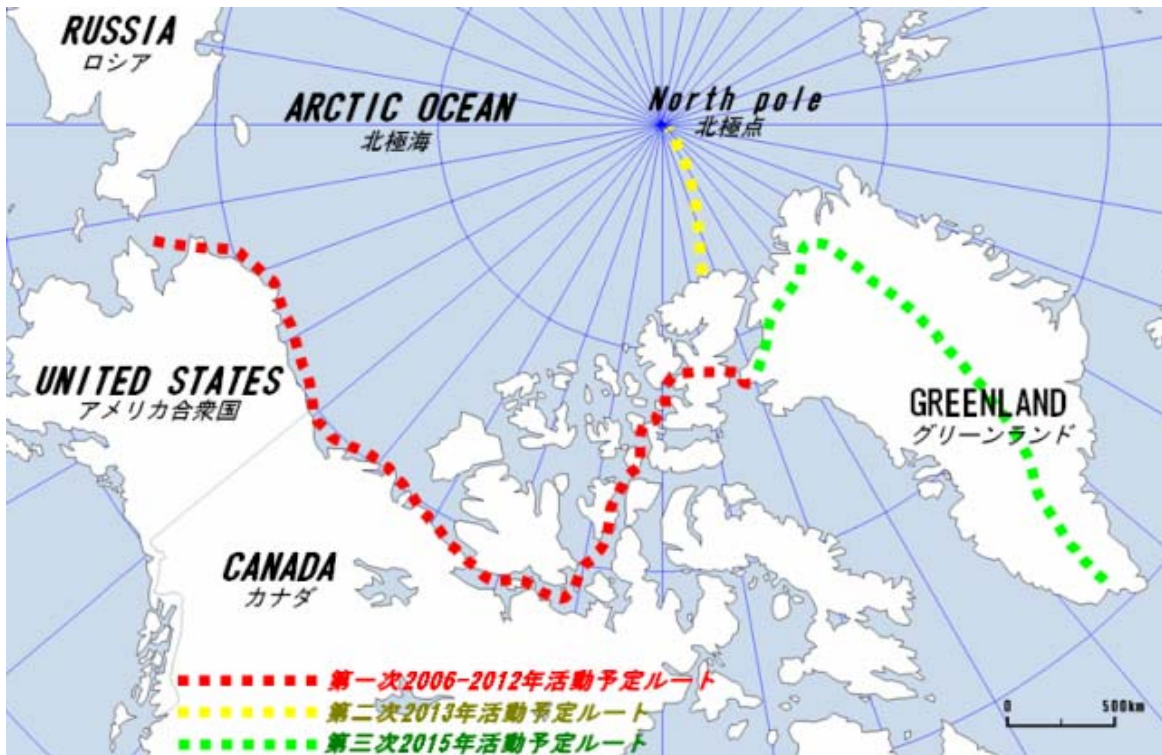
2009年 第4回モンベルチャレンジアワード受賞



アバンナット 犬ぞりによる北極圏環境調査プロジェクト 2006-2015年

1988年から現在に至るまで、北極遠征を続けてきた。20年以上に渡り、毎年のように北極圏に通い続ける中で、温暖化や人為汚染などといった地球環境問題が騒がれるようになった。環境への取り組みに、自分も何か参加できないか？自分に何が出来るか？と考えた時、僕の手の中には北極しかなかった。北極圏に住むエスキモー(イヌイト)の人たちから伝授された犬ぞり技術を駆使し、広域を移動しながらの活動が自分には出来ることだ。そして2006年から「アバンナット 犬ぞりによる北極圏環境調査プロジェクト2006-2015年」10年計画をスタートした。

北極圏は地球が抱える「温暖化」や「人為汚染」といった影響が顕著に表れる場所だ。継続的に海水や雪氷などのデータ収集をしたり、北極圏各地に暮らすエスキモー（イヌイット）から自然や生活環境の変化の聞き取り調査をすることは、地球の環境推移を正しく知ることに繋がる。これまでは公的資金のもと極地観測は実施されてきたが、民間支援による極地観測調査活動も必要な時代ではないだろうか。研究者の方たちと共同で、自然の変化が急速に見られる北極圏で広域な観測調査を継続して実施し、極地の現状を自ら情報発信していくことで次の世代に繋げたい。「自分に何が出来るか?」。このプロジェクトを通じて、私達が取り組んでいかなければならない環境問題に対し、ひとつの貴重な貢献になると信じている。



第1次アバンナット計画 北極圏沿岸域環境調査

2006年～2012年、北極圏沿岸域（グリーンランド～カナダ～アラスカ）
 （2006-10年 4シーズン、グリーンランド北部からカナダ北極圏にかけて活動を実施）
 （2010-11年 カナダ北極圏レゾリュートを出発し、北西航路をアラスカ方面に西進予定）

第2次アバンナット計画 北極海域調査

2013年、北極圏海域（カナダ エルズミア島～北極点
 周辺）予定

第3次アバンナット計画 北極圏内陸域調査

2015年、北極圏内陸域（グリーンランド氷床） 予定



アバンナットプロジェクト

ホームページ 北極圏をテツがゆく <http://www.eonet.ne.jp/~avangnaq/>
 アバンナット事務局 Email avangnaq@gaia.eonet.ne.jp